

合唱とピアノのための民謡交響詩

『坂東栗橋感懐』

委嘱初演！

坂東栗橋感懐 8

加藤 良一 2024年12月26日

男声合唱団コール・グランツ創立35周年記念コンサートが12月21日(土)、無事終了致しました。久喜市栗橋文化会館・イリスホールにお集まりいただいた多くのお客様に心より御礼を申し上げます。埼玉県合唱連盟、日本男声合唱協会、埼玉県久喜市教育委員会・加須市教育委員会の後援を受け、また埼玉県文化振興基金の助成を受けての開催となりました。

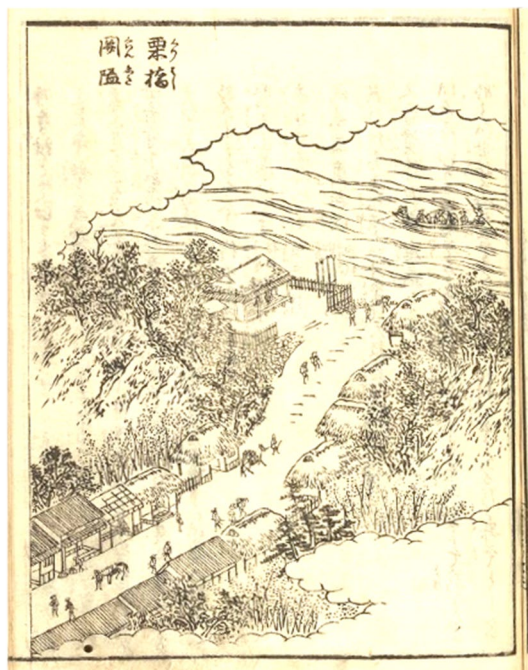
今回のコンサートでは、男声合唱団コール・グランツにとって初の委嘱作品の初演を行いました。それが、地元栗橋の作曲家^{おぶね}中野さとみさんによる「合唱とピアノのための民謡交響詩『坂東栗橋感懐』」です。同じく栗橋の詩人高橋郁と隣り町加須市出身の作曲家下總皖一とで創作した「栗橋草刈り唄」、「小舟を出せば」、「泊り舟」に加え、1972年高橋郁があらたに作詞した「栗橋音頭」の合せて4曲をメドレーで構成しています。「泊り舟」以外は民謡です。「感懐」とは「心に抱く想い」という意味です。古くからいる人びと、新しく住みついた人びと、それぞれが歴史の町栗橋に思いを馳せるなかで生まれた新しい民謡交響曲です。

『坂東栗橋感懐』は、独自の音楽展開のなかで、J.S.バッハのコラールやフーガ、ベラ・バルトークのピアノソナタの作風も採り入れています。さらにピアノはいわゆる合唱の伴奏の域に留まらず、歌と対等の重要な位置づけである点は特筆すべきことです。前述の4曲を「起承転結」の四つの部分に配置して全体をまとめています。詳しくは上のプログラムを開いてご覧ください。

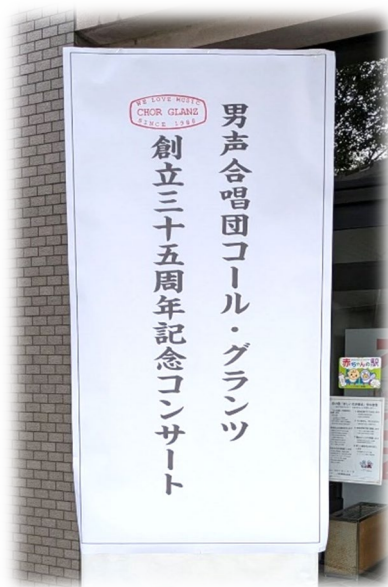
栗橋は「♪日光街道で 名の出た宿場 さても栗橋 歴史の町よ」と栗橋音頭に歌われているように、江戸時代の重要な宿場町でした。徳川将軍が日光詣でするときだけ掛けられた船橋を行列が渡る景色を描いた「日光御社参 栗橋渡し船橋の図」*をプログラムの表紙にあしらいました。



クリックするとプログラムが見られます



※日光御社参： 徳川家が日光東照宮へ参拝すること。主に徳川家康の命日である4月17日に実施された。主に用いられた行程は、江戸城を発つと、まず日光御成道を進み、初日は岩槻城に宿泊した。二日目は幸手宿近くで日光街道（日光道中）に入り、栗橋宿で利根川に臨時に船を並べて作った船橋を渡り、古河城に宿泊、三日目は宇都宮城に宿泊したのち、四日目に日光に到着した。日光には連泊し、復路は往路を逆に辿る合計八泊九日の行程であった。家綱の頃までの復路では、今市宿から壬生通り（日光壬生道、日光西街道）に入り、宇都宮城の代わりに壬生城に宿泊することもあった。



プログラムの解説コーナーには、作曲家中野さとみさんが委嘱作品作曲に対する思いを込めた「坂東栗橋感懐の作曲にあたり」、創立記念コンサート実行委員長土田耕太郎さんの「坂東栗橋感懐で歌われる歴史の町栗橋」、今回の委嘱作品依頼に重要な役割を担った田村邦光さんの「合唱とピアノのための民謡交響詩『坂東栗橋感懐』」などを掲載しています。ご参考までにご覧ください。



本番前に勢揃い

- 石黒憲司
(トッブテナー)
- 浅川 清
(トッブテナー)
- 遠藤恭平
(トッブテナー)
- 石川和彦
(セカンドテナー)
- 安田弘子
(ピアニスト)
- 中野さとみ
(作曲家)
- 加藤良一
(セカンドテナー)
- 江橋幸次
(セカンドテナー)
- 笠井利昭
(指揮者)
- 田淵厚行
(バリトン)
- 野口享治
(バリトン)
- 塚田啓一
(バリトン)
- 田村邦光
(バス)
- 横山岩雄
(バス)
- 土田耕太郎
(バス)

2024年

<バックナンバー>

- ❖[No.7](#) 8月5日 作曲家 中野さとみさん 日本童謡協会「ふたば賞」受賞！ 加藤良一
(M-199) 童謡と唱歌 どうちがうのか？
- ❖[No.6](#) 7月11日 くりはし夏祭り 栗橋音頭 大神輿 坂東太鼓 加藤良一
- ❖[No.5](#) 6月20日 「坂東栗橋感懐」に寄せて 土田耕太郎
- ❖[No.4](#) 5月27日 下總皖一と民謡を創った 詩人・高橋 郁 加藤良一
- ❖[No.3](#) 5月15日 地元愛溢れる新民謡 「音頭」は地域を作る 加藤良一
- ❖[No.2](#) 4月10日 和声学の神様と言われた下總皖一の業績 加藤良一
- ❖[No.1](#) 4月2日 男声合唱団コール・グランツ創立35周年記念委嘱新作 加藤良一
合唱とピアノのための民謡交響詩「坂東栗橋感懐」

Back

坂東栗橋感懐TOPへ

Home

HOME PAGEへ